

# 古田暁教授退任記念号に寄せて

石 井 敏

古田暁先生は、本年3月末日をもって異文化コミュニケーション研究所長をご退任なさるそうですが、約14年もの長い間、研究所長としての重責をお果たしになられた先生の先見の明、指導力、そして熱意に改めて敬意を表する次第です。

思い起せば、15年程度前に神田外語学院の一室で先生から研究所設立の斬新な構想を拝聴し、強い感銘を受けたのもつい先日のようなようです。その後の世界的な国際化と情報化の時代的な要請もあり、異文化(間)コミュニケーションは、日本における単に新しい専門用語として認知されるだけでなく、多くの大学の教育課程に加えられ、重要な研究分野としての位置を擁立するに至りました。その背景には、研究所が積極的に実施してきた各種講演会と研究会の開催、研究紀要とニューズレターの刊行、夏期セミナーの開催等の組織的活動の絶大な貢献があることを改めて痛感致します。そして、このような異文化(間)コミュニケーションの研究と教育の成果を国内外で広く知らしめた研究所の責任者としての先生の企画力と指導力に改めて敬服せずにはられません。

来る21世紀においては、異文化(間)コミュニケーションの研究と教育の意義は一層高まると予測されます。交通機関と情報網の驚異的な発達により、人間と物と情報が常に地球的規模で流動し、その現象の根底には文化とコミュニケーションの問題が潜在するからです。そこで今後留意を要する重要な点は、異文化(間)コミュニケーションの研究と教育の中心を従来の日本対欧米の問題から日本対アジア諸国や日本国内の諸問題に転換をし、その成果を国内外に広く発信する必要があるということでしょう。その意味で、研究所の今後の活動は一層注目を集めると思われます。

所長ご退任後の古田先生には、雑務から少しでも解放されて、ご自身の

ご研究をお進めになり、同時に神田外語大学および異文化コミュニケーション研究所の諸活動に大局的な視点から助言をして下さることを願ってやみません。以上をもって、日頃不勉強の私に公私共に種々のご指導をして下さり、微力ながら研究所の活動に協力をさせて下さった古田先生にお贈りする言葉と致します。